第 2015-14 号

恵みと真理のニュース

2015 年 4 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

急に倒れ一ヵ月半間意識不明の状態だった私を神様は癒してくださいました

私は昨年2013年11月に食中毒による髄膜炎で倒れ病院に運ばれ、一ヶ月間無意識の状態で当会長の牧師の祈り、聖徒の多くの祈りと神様の恵みで命を得ました。祈ってくださった全ての方々に感謝して証し神様に栄光を捧げます。
家で豆水を飲んだ後体に蕁麻疹が出て酷く下痢をしました。普通健康に自信があったので薬だけ飲むとすぐ治ると思って薬局に行き薬を買って飲みました。しかし、その場で倒れ意識不明になり119救急車で大学病院の応急室に運ばれました。すぐ妻は教区長と区域の聖徒、長老に祈りを頼み、私の病気の介護をしながら早く起きるように涙で神様に祈りました。
私の家で区域の聖徒が集まって一週間の期間を決めて祈り会をしました。共に祈りをする中である区域長が幻を見ると私が治療を受けて起きた事が見えたと私の妻に心配しないでもっと神様に祈りましょうと言われました。妻は教会で会う聖徒一人一人に祈りを頼みました。教区で聖徒が集まる時に私のため祈ってくださり、長老と勧士達にも病院に訪問して祈ってくださいました。私を知らない方までも金曜祈りかで参席した聖徒達も祈ってくださり勧士会と長老会と国内宣教会で私の回復のため共に祈ってくださいました。
当時病院で私が死ぬか起きても体の半分は使えなくて正常的な生活は難しいと言われました。他の方法もなかったです。妻は当会長牧師に祈りを頼みました。牧師はすぐ病院に来られ私を祈ってくださいました。妻と医者から話を聞いた牧師はそのような否定的な状況でも希望を捨てなくて強い信仰を持つように私の家族を慰め励ましてくださり神様が働くと治るので絶対に肯定的の信仰で祈ることを頼みました。牧師が帰って驚くな事が起きました。その次の日に検査結果を見た医師から菌がなくなったと特別な治療もしてないのにこれは奇跡だと言われました。それでも、まだ私が起きなかったので妻がもう一度当会長牧師に訪問と祈りを願いました。牧師が来られ今回にも切に祈ってくださいました。すると嘘のように奇跡が起こりました。起きて牧師が教会に戻ってすぐがなく浮腫みなり意識が戻り始めました。
その後、一ヵ月半ぶりに完全に起きるようになりました。その時にすぐ意識が戻りましたがすぐ起きると苦痛が酷くなり後遺症になる可能性があると完全に治った後から治療したので時間ががかりました。
　私は意識を失った状態で続けて夢をみました。起きても一時期夢が現実で錯覚して過ごしました。長い時間が過ぎてから夢と現実が区分できました。私は夢の中で妻の真実な信仰を見ました。妻が悪魔を退けて御言葉で勝つ幻を見ました。私は健康を回復して以前の事を振り返ってみました。そして、神様に限りない感謝を捧げました。私のような罪びとのため十字架で血を流しながら死なれた主、私を選んで子供になさせてくださり、驚くな恵みを与えてくださった神様に感謝を捧げます。
1980年妻が先にイエス様を受け入れて信仰生活をしました。しかし当時には私は酒を飲んだり、世の中で遊ぶのが好きでした。妻が食卓でまず神様に感謝の祈りをすると私は怒ってお茶碗をなくしたり主日ことに妻が涙を流すほど教会に行けないように迫害しました。本当に悔い改めます。その年8月のある土曜日でした。お酒をたくさん飲んで主日の朝になるとお酒をこれ以上飲むと死ぬと思いました。妻をついて教会に行きイエス様を受け入れました。説教の御言葉に感動され礼拝の後牧師の説教のテイプを買って聴いて賛美を聞きながら歌いました。友達と聖書勉強を始め盛会にも熱心に参席しました。
1985年働いていた会社がソウルからアンサンに引越しました。感謝する事は当会長の牧師が家まで訪問して祝福してくださいました。感謝しました。日々信仰が成長しました。アンサン聖殿で建てる前からアンヤン聖殿まで来て伝道部に属して奉仕し始めてアンサン聖殿が建てった後には男性奉仕連合会で教会と聖徒を仕え教会中心で生活しました。その私に神様は安手執事、男性区域長、長老の尊い職分を下さり妻にも勧士の職分も下さり祈りと愛で聖徒のため献身するように恵みを与えてくださいました。限りない主の恵みに感謝して賛美を捧げ栄光を神様に捧げます。当会長牧師に出会い牧師を通して礼拝を捧げる時に恵みと真理の御言葉で魂が満足され右にも左にも偏らなく強い信仰を持つようにしてくださった主に感謝します。もう死んでも神様の栄光のため死んで生きても神様の栄光のため生きることを決心しました。神様が与えてくださったこの命と新しい時間を預かられた使命を尽くしながら忠誠します。ハレルヤ！

［信仰コラム］

苦難が有益になりうる

″苦しみにあったことは、わたしに良い事です。これによってわたしはあなたのおきてを／学ぶことができました。″(詩篇 119:71)

デンマークの哲学者セーレン・キェルケゴールはデカルトの″私は考えている。 ですから、僕は存在する。″という言葉を少し変えた表現で ″私は苦痛する。 だから私がいる。″と述べました。 人間は誰でもこの世の中に生きている間に色んな苦しみを経験しがちです。したがって、聖書で苦難の問題を広くて深く取り扱っています。 聖書が啓示している苦難の種類とその意味を見てみます。

第一に、試験を受ける苦難があります。
ここで言う試験という邪悪な意図で試験する悪魔の試験ではなく、正しい認めることを受けための神様の試験を話します。 神様がアブラハムを試験するために、彼の独子のイサクを 燔祭にしなさいとおっしゃいました。 イサクはアブラハムが百歳になれて得た息子だもの 燔祭物で神様に差し上げるという命令が落ち、青天の霹靂でした。 しかし、アブラハムは無条件に追従しました。 神様が予備した雄羊に 燔祭を差し上げるようにして、アブラハムを是としていて大きな幸運を施してくれました。 皆さんに、神様の試験を受ける苦難があれば徹底した信頼と純宗に合格し、神様より認定を受けて賞を受けることになってください。

第二に、懲戒に近づく苦難があります。
神様に対する不信行為によった懲戒の苦難があります。エジプトで出たイスラエルの民は神を信頼して困難に直面するたびに恨み不平を言っていました。 これにより、40 年間荒野に放浪生活をして結局、20 歳以上の人はヨシュアとガルレプを除いて全て広野で死にました。 また、神様の意味を不順従する行為によった懲戒の苦難があります。 預言者ヨナ書は大きな城邑ニヌウェに行って神様の審判が迫っていることを宣言するようした神様の言葉に不順従し、その反対方向のダシスに行く船に乗っていたが、大きな魚に飲み込んウは、苦難を受けました。 魚のお腹の中で三日三夜を務め、彼が悔い改めの祈りをすると、神様が魚にとって、彼を陸地に吐かせました。 神様の懲戒で苦難を受ける場合には、速やかに悔悟しなければなりません。 神様の懲戒は愛の鞭です。

第三に、心霊の演壇のための苦難があります。
私たちの身体を鍛錬することでくるしくてつらいことや特殊な任務を十分に果たして行けるようにすると一緒に神様は私たちが苦難を通じてそのような鍛錬を受ける過程と機会をしてくれます。 パウロは患難を通じて神様を全面的に依頼する法を学びました。(コリントの信徒への手紙二 1:8、9)も、肉体のとげを通じて謙遜を習いました。(コリントの信徒への手紙二 12:7~10)謙遜は神様の恩と能力が満たされる皿です。苦難は燃やして無くす火ではなく、流用して真っ赤に作る演壇の火です。

第四に、神様に対する信仰を守って福音を伝えるために当該する苦難があります。
聖書に啓示された神様を信じて仕える信仰は聖徒らには、そのどんなものよりもっと大事です。 そのためこの信仰を守るために多くの人たちが苦難を受け、さらには殉教を喫したりもしました。 このような苦難は聖徒が喜んで受けなければならないのです。(フィリピの信徒への手紙 1:29、ローマの信徒への手紙 8:17~18)

第五に、その理由を知ることができない苦難があります。
聖書ヨブ記に登場するヨブが受けた苦難と同じものなのです。 苦難は時には罪によります。 自分の罪がなく、他の人の犯罪によったりします。 しかし、犯罪や不敬の件とは何の関係もない高難度のいます。 ヨブは到底理解できない苦難の中でばたばた動いて,神様に対する無条件的な信頼を学ぶようになり霊安が開かれました。(ヨブ記 42:3、5)理解できない苦難に直面しても、私たちが神様の能力と知恵と善良心を強く信じる、神様とのもっと深い交通の席に前進することになります。 そのいかなる苦難も省都には究極的に有益がなります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

驚くべきで光栄な変化

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

自然界に存在するすべてのものは変化の過程にあります。 これは自然法則に属します。 美しいのが醜く変わります。 秩序あることが無秩序に変わります。 命を持ったのが死骸に変わります。 人も生まれて死ぬまでずっと身が変わります。 青春に至るまでは前向きの変化だがその後では衰退する変化が進行されます。こんな衰退を拒否して阻んで見ようと思うことが人の常です。 努力して投資すればどのくらいは成果があるが衰退をとても止めさせることはできないです。 ところで朗報があります。神様が恵みでくださる驚くべきで光栄な変化に対する消息です。 これはイエスキリストにあって経験するようになる変化です。

第一は、霊魂の変化です。

天地万物は神様が造った被造物です。 人は特別な存在で肉体に霊魂が存在するように造られました。 “主なる神は土のちりで人を造り、命の息をその鼻に吹きいれられた。そこで人は生きた者となった。”(創世記, 2:7) としました。 ところで人類の先祖アダムとエバが神様の命令を逆って禁止された善し悪しを知る木の実を取って食べるによって罪人になりました。犯罪によって人の霊魂は神様の命から離れ去った状態になりました。 (エペソ 4:18) あわれみの豊かな神様が罪人に霊魂がよくできる変化を着ることができる唯一の道をくださいました。その道がイエスキリストです。 神様がイエスキリストでありイエスキリストが人の身を着て世の中へいらっしゃいました。 罪人の罪を代わりに担当してあがないするためなのです。これのために苦難受けて十字架に釘付けられる事ができなくてはたまらないことで私たちがいただく刑罰と審判を代わりに受けました。 神様が罪人に要求することは自分が滅亡受ける罪人であることを自ら認めることと死んで復活したイエス様を救世主と神様で信じて迎接するのです。 誰でもイエスキリストを信じて迎接すれば彼の罪を皆赦し受けるようになって義を得るようになります。 “すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており 彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。”(ローマ人への手紙, 3:23,24) としました。 イエスキリストを信じればその霊魂が新しい命を得ます。 (ローマ人への手紙 6:4) 新しい命は永生する命です。永生と言うのは神様の国で福楽を享受して永遠に暮すのです。 ヨハネによる福音書 3 章 16 節に 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。”と言いました。

二番目は　身分の変化です。

神様がすべての人に驚くべきで光栄な身分の変化を経験することができる機会をくださいました。神様がくださる変化された身分はこの世の中のどんな身分より貴くて偉いなのです。 それは神様の子になる身分の変化です。 神様の子という身分は生まれを通じて得るようになります。その生まれを聖書は新しく生まれかわりだと言いました。 イエスキリストがおっしゃるのを “イエスは答えて言われた、「よくよくあなたに言っておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」。”(ヨハネによる福音書 3:3) しました ヨハネによる福音書 1 章 12 節 13 節に記録されるのを “しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。それらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神によって生れたのである。” と言いました。堕落したアダムの子孫は誰もその身分が悪魔の子です。 ところでイエスキリストを信じれば神様から生まれた神様の子になります。 また天国市民になる身分変化です。 イエスキリストがおっしゃるのを “偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。あなたがたはひとりの改宗者をつくるために、海と陸とを巡り歩く。そして、つくったなら、彼を自分より倍もひどい地獄の子にする。”(マタイによる福音書 23:15) としました。地獄の子が天国の民で身分の変化を受ける道はイエスキリストを信じるしかないです。 ピリピ人への手紙 3 章 20 節に “しかし、わたしたちの国籍は天にある。そこから、救主、主イエス・キリストのこられるのを、わたしたちは待ち望んでいる。”と言いました。

三番目は、意識と観念の変化です。

意識や観念はどんな影響を受けて形成される見解、思想、理論を言います。
“はじめに神は天と地とを創造された。”(創世記 1:1)で始まる聖書に根拠した宇宙館と命体の起源に関する観念を持つようになります。万物は現在どおりずっと存在するのではなく神様が決めた時に熱い火に燃えて消えて新しい天と新しい地が渡来するようになるという観念を持つようになります (ペテロの第二の手紙 3:10-13、ヨハネの黙示録 21:1) 歴史観が変化されます。 歴史の主権者は神様で、人類歴史は神様のみ旨にしたがって進行されて、神様の主観と摂理の中で成り立つという観念を持つようになります。 価値観が変化されます。 イエスキリストを信じれば一時的なことより永遠なことに価値を置きます。 そしてこの世の中に住むうちに神様の前に立つ私を思いながら暮すようになります (コリント人への第二の手紙 4:18) 自分の光栄のために働かないで神様の光栄のために働くようになります。 自分を喜ばれるために働かないで神様を嬉しくしようとする一念で働くようになります。 イエス様を信じれば礼拝と伝道と奉仕に力をつくすようになる理由がここにあります。

四番目は考えと言葉の変化です。

考えと言葉はその人の品格を形成します。 そして行動を牛耳ります。 それだけではなく彼の生にこの上なく大きい影響を及ぼします。クリスチャンの考えと言葉には六つの特徴があります。 信仰、所望、愛、柔らか、謙遜、感謝です。 こんな特徴が明らかに現われる変化があろうとすれば努力が必要です。 自分の変化された身分に対する認識が確かな考えと言葉の変化が著しくなって、神様のお言葉に従順して神様の口約束を信じる深さくらい考えと言葉が変化されるからです。

五番目は　肉体の変化です。

肉体の変化はイエス様の再臨の時にあるようになるでしょう。 コリント人への第一の手紙 15 章 51 節と 52 節に “ここで、あなたがたに奥義を告げよう。わたしたちすべては、眠り続けるのではない。終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる。というのは、ラッパが響いて、死人は朽ちない者によみがえらされ、わたしたちは変えられるのである。” しました。 ここで言う “奥義”と言うのは死亡者がまた生き返えて、変化された身を着るようになるという消息です。 聖徒の復活はイエスキリストの復活から始まったのです。イエス様の復活はイエス様のあがないの使役が成功的で完全に成就したことを明らかに証明するのです。 収穫する初実がまもなくで皆が刈り入れるようになることを予告することと一緒にイエス様の復活はいまから近付く聖徒の復活を予告して保証するのです。 その驚きべきがイエスキリストが再臨なさる時になるでしょう。主にあって死んだ者がまず起きて引き継いで生きている聖徒が変化されて空中に導かれて神様をお会いできるでしょう。 (テサロニケ人への第一の手紙 4:16,17) イエスキリストが再臨なさる日に聖徒の身は１秒の１兆分の１のもっとも早く変化されるでしょう。 腐る身が腐らない身に変化されます。 恥かしい身が光栄な身に変化されます。 弱い身が強い身に変化されます。 肉体が神霊な身に変化されます。 地に属した形体が天に属した形体に変化されます。死ぬ身が死なない身に変化されます。(コリント人への第一の手紙 15:40～44, 51～53)

今までよく見た内容を整理して見ます。 第一は、霊魂に起きる変化です。 罪の赦しを受けて義のあるようになって永生を得る変化です。二番目は、身分の変化です。 悪魔の子が神様の子になって、地獄の子が天国市民になる変化です。 三番目は、意識と観念の変化です。 聖書に啓示された神様のお言葉によって宇宙館、命体の起源に関する観念、歴史観、価値観が変化されます。 四番目は、考えと言葉の変化です。 信仰、所望、愛、柔らか、謙遜、感謝で充満する考えとものを言うようになります。五番目は、肉体の変化です。 イエスキリストが再臨なさる時に復活して変化して 1) 腐らない身 2) 光栄な身 3) 強い身 4) 神霊な身 5) 天に属した者の形状 6) 死なない身を着るようになります。 霊魂の変化と身分の変化はイエスキリストを信じて迎接する時に経験する変化です。 意識と観念の変化と考えと言葉の変化は世の中に住むうちに神様のお言葉と聖霊様の教えを受けるので起きる変化です。 肉体の変化である復活はイエス様が再臨なさる日に経験する変化です。

皆さんはイエスキリストを心からつくして信じて愛しますか? 皆さんは霊魂にもう驚くべきな変化を着ました。 将来に皆さんの身も変化されるでしょう。 そしてこの世の中を生きる間にクリスチャンに適当な多くの変化が続くでしょう。 皆さんはイエスキリストにあってもう経験したし現在に経験しているし将来も経験するようになる驚くべきで光栄な変化を常に思いながら生きて行くように願いします。